

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	吉武 俊一郎
学位の種類	博士（工学）
学位記番号	都市博甲第1946号
学位授与年月日	2017年9月15日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	大都市郊外縮減都市における豊かな市街地再生方策に関する研究
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 高見沢 実 横浜国立大学 教授 佐土原 聡 横浜国立大学 教授 大原 一興 横浜国立大学 准教授 藤岡 泰寛 横浜国立大学 准教授 野原 卓

論文及び審査結果の要旨

本研究は、人口減少時代に入った日本の新しい都市計画システムを探る意欲的な研究である。人口減少や空き家・空き地問題は一般に「問題」と認識されるが、本研究は、それを「豊かな」市街地再生へのチャンスととらえ、地域固有の魅力や特色への愛着・誇りを増進させる地域づくりの方策を見出すことを目的としている。研究フィールドはこうした問題が顕著に起きつつある横須賀市とし、とりわけ人口減少の顕著な谷戸地域を研究対象としている。論文は8章より構成される。

序にあたる第1章に続いて、第2、3章ではマクロ・ミクロの両面から人口減少の進む市街地の物的特質および空き地化・空き家化の要因に関する分析を行い、ミクロなアクセス性の弱さ（車が入れない敷地の集積等）や居住に困難な高低差の程度が市街地の縮減の主要要因になっていることを明らかにした。第4章では地域管理の観点から谷戸地域の30自治会に対してアンケート調査を行い、空き地化等の課題の認識、具体的対応の検討、実施の3段階に構造化して地域コミュニティの関与の可能性を明らかにした。第5章では全国を対象に特に空き家除却後の跡地管理にまで踏み込んだ条例による地域管理手法を分析した。ここでは特に、行政、地域コミュニティ、土地所有者の役割分担に注目し、横須賀をはじめとする大都市部でのこうした課題への対応は、所有者の責任を明確にしつつ、行政が一定の方針やインセンティブをもつてのぞみ、さらに地域のきめ細かな情報把握や跡地管理に地域コミュニティが関与する方法が最も適していることを明らかにした。

第6章ではそうした可能性を実地に検証するため、第4章で地域管理力が高いとされた1地区においてワークショップやアンケート、関係者の地域点検への同行等を行い、空き地化のメカニズムや地域情報の把握方法、今後の土地建物へのニーズ等を総合的に明らかにした。一方、第7章では「豊かな市街地」を評価する指標を抽出するため、横須賀鎌倉地域で活躍する特定の不動産事業者による不動産評価方法を構造的に分析し、それを応用して実際のフィールドで敷地ごとの評価を試行した成果を示している。

第8章では、空き家・空き地、とりわけ空き地化する一方の不動産を主なきっかけ・資源としながら、行政、地域コミュニティ、土地所有者らが適切な役割分担をもって、「豊かな」市街地へと再生していくためのシステムを整理・提案している。

以上のように、「縮減」という新たな都市の動向やそのメカニズム等を特定のフィールドから明らかにし、そうした動きを「問題」としてとらえるのではなく「豊かな」市街地再生へのきっかけになりうることを具体的なシステムとして提示した本研究は、同様な課題を抱える他の都市にも貴重な手がかりを与えるものとして評価された。

なお、iThenticateによる論文剽窃チェックの結果を審査委員会の場に報告し、問題ないことが確認された。

2017年8月8日10時より建築棟大会議室において公聴会を開催し、申請論文の内容について口頭発表と質疑応答を行った。その後、同日10時50分より控室にて審査委員による審査会を開催した。その結果、全員一致して本申請論文が十分な内容であり、発表に関連する質問に対する回答から博士（工学）の学位を得るに相応な学力があることを判定した。博士課程後期修了に必要な単位は取得済みである。

外国語の学力の確認については、本論文に関連した英文による学会発表を行っていること等からその学力が確認できた。学位取得に必要な査読付き論文（建築系の内規では課程博士は1本以上。「大都市圏郊外都市における市街地縮減の動態に関する調査研究」、吉武俊二 控・中名生知之・高見沢実、都市計画論文集 51 卷 3 号、pp1093・1100、2016）についても確認できた。

以上により最終試験は合格であると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。